

福井いきいき会新聞

2021年8月発行
発行：福井いきいき会：福井市中央1-9-29
0776-28-6464
発行責任者 吉岡副会長

一生勉強 一生感動 一生青春 (第32号)



コロナ禍を乗り越えてと祈る13万羽の折り鶴

新型コロナウイルスの感染状況

八月の後半に入って新型コロナウイルスの感染が急増しています。福井県では、福井市の飲食店で発生したものが、越前市の大企業でも大規模なクラスターが発生、お盆前後の県外由来の感染が広がっている状況です。福井県では、六十五歳以上で九十%以上が二回目のワクチン接種を終えているため、高齢者感染は抑えられています。接種

文化祭について

後の感染を意味するブレクスルーも報告されています。このような状況なので、当会のサークルへの参加は気を緩めることなく、感染防止の基本を十分に守っていただきたくお願い致します。

当会の文化祭は、会場となるハピリンホールが使用禁止にならない限り、十月三日(日)に開催する予定で準備を進めることを八月の運営委員会で決定しています。開催日までに状況が改善されることを祈るばかりです。文化祭は当初の予定の事を目的としますが、孤独になりがちな高齢者に生きがいのある居場所を提供するという当会を、来場者を知っていただき、会員となつていただくこ

上の写真

この写真は、佐佳枝神社の正面に飾られた十三万羽の折り鶴で、新型コロナウイルス感染の収束を祈る大勢の市民の祈りを集めたものです。

とも大きな目的であります。無事に開催できることを信じて、準備を進めていきたいと思えますので、各位のご協力をお願い致します。

夜明けの会で日帰り旅行

夜明けの会では、タビーズ社の福井県民限定の旅行プラン「料亭で十二種豆ランチ・紙漉き体験に」十四名のメンバーが参加し、和紙の里で灯りづくり紙漉き体験、重要文化財に指定された紙祖神岡太・大瀧神社の見学、お昼はコロナ対策をした料亭「うおとめ」にて、色とりどりの食事を楽しまれた。



夜明けの会の日帰り旅行

芸能クラブのメンバーが演劇の講習に参加

芸能クラブの六名が、福井市、まちづくり福井株式会社主催する二度の演劇の講習会に参加し、演劇のセリフの様々な表現方法や、喜怒哀楽を声や体で表現する方法を学ばれました。一回目は「演劇を作ろう」というテーマで「演劇の全く違う二つの戯曲を使って、セリフの表現で実際にシーンを作ってみよう」というもの。二回目は「演劇で喜怒哀楽を表現しよう」というテーマで、渡される脚本の劇中で、登場人物が何を考え、誰にどんな気持ちで何を訴えるのかを考えて読み合わせをする。講師の模範となるセリフのやり取りもあつて、喜怒哀楽の表現の勉強ができたとのこと。会場はハピリンホールで、能舞台だったところで



演劇の講習を受ける芸能クラブの人たち

す。詳しい内容を書いた山口悦子さんのエッセイは、次号の新聞に掲載します。

私のいちおし「夕焼けを見る少女」光の世界メルヘン展

当会会員の富士佑子さんが、福井市美術館で開催中の「光の世界メルヘン展」の題記の展示会を鑑賞された。いちおしされた作品の記事が、八月二十八日(土)の福井新聞に掲載されました。転載します。



富士さんと、いちおしされた作品

会員のページ

人生訓

人の一生は重荷を負うて遠き道をゆくが如し、急ぐべからず(徳川家康)

濱田 芳雄

この教訓も、大変有名な言葉でして、徳川三百年の歴史を築いた東照権現こと徳川家康の自分の人生の生き方を一言で言い表したような教えになつております。織田信長、豊臣秀吉あるいは伊達政宗、武田信玄といったような英雄、豪傑と戦い抜いて、結局我慢の勝利と云いますか、徳川家康は結局最後の勝利をつかんだと言つてもよろしいかと思ひます。

有名な歌に家康、秀吉、信長の性格を見事に表した歌があります。「泣かぬなら殺してしまえ ほととぎす」、これが信長の性格を



徳川家康

表した歌で、「泣かぬなら泣かせてみよう ほととぎす」、これが秀吉です。そして最後の家康は、「泣かぬなら泣くまで待とう ほととぎす」、要するに熟柿が落ちるように機が熟してくるのをじつと待つて最後に豊臣秀頼を滅ぼして天下を取るわけですが、この着実な歩みと言つものは、やはり家康の生い立ちと深くかかわっているように思われます。

徳川家康は幼くして人質になり、子供の頃から辛酸をなめてきて、その結果人生と言ふものは苦しいものである。苦しみ抜き努力したものが最後に勝つのだと言ふことを、よく知つていたのです。それがこの言葉が作られるようになった元ではないかと思ふのです。この言葉は読んでも非常に重苦しい感じが致します。

遠くまで歩くことを覚悟して、急ぐことなく、一步一步足を踏みしめて進んでいくのが人生だと家康が論じているのですが、これはいわゆる辛抱型の人にぴつたりした人生訓になるのではないでしようか。

この重荷が何を意味するかは人によって違ふと思ひますが、人生を振り返つてみて、こういう言葉が身に

染みるのは歳をとつてからの人間ではないかと思ひます。

山岡荘八の徳川家康がベストセラーになるまでは日本人はとも家康のような、じつくり方・ネクラ的な辛抱タイプは好きになれず、天才型で炎と燃え尽きた織田信長か、庶民的でネアカの豊臣秀吉の方がずっと好きでした。それが、家康ブームになったと言ふ事は、日本が高度成長期を終えて、5%以下の低成長時代に入り、長く続くであろうと言ふ時代になったことに対応していると言ふことがよく分ります。

トヨタ自動車は家康の出身地三河の企業でだけあって、役員になると山岡荘八の徳川家康の全巻を読むと言ふにと義務づけられると言われています。これによつて三河精神を叩き込めと言ふのでしようか。いかにもトヨタらしい行き方です。

家康の歩みをたどつてみますと、浜松に居城を定めたのが二十八歳の時で、それから長い戦国時代を生き抜いていくわけですが、北条氏を破つて江戸城に入ったのは四十八歳、関ヶ原の決戦が五十八歳、征夷大將軍になったのも六十一歳になつてからでした。將軍になつてすぐ引退隠居し、秀

忠、家光と三代まで育つのを見届けると言ふ周到ぶりでした。大阪冬の陣、夏の陣で豊臣家にとどめを刺したの七十四歳、それで望みを果たし力が尽きたのか、その翌年天ぷらを食へ過ぎで急逝しました。

「小事には分別せよ、大事には驚くべからず」、「勝つ事はかり知りて負くることを知らざれば害その身みに至る」

(家康遺訓) AI(人工知能)は人間に勝る? 吉田一郎

将棋や囲碁をされる方はもうご存じだと思いますが、AI(人工知能)がプロに勝つようになりました。囲碁の世界では、当時世界最強の棋士と呼ばれていた韓国のイ・セドル九段が、AIに負けて引退するとい

う衝撃的な出来事がありました。二〇一九年のことでした。将棋でもAIがプロの名人(佐藤大彦名人、当時)に勝ちました。二〇一七年のことです。

それではプロ棋士の存在意義は、もう無くなつてしまつたのでしようか。人間の同士の勝負は、もはや見る価値のないものになつてしまつたのでしようか。

今年(二〇二一)の二月のことです。今を時めく十

八才の将棋プロ、藤井聡太二冠が朝日杯という棋戦で優勝しました。

そこで面白いことがありました。渡辺名人との準決勝も、三浦九段との決勝もAIの形勢判断では、途中まで藤井二冠の方が圧倒的に不利でした。ところが最後には藤井二冠が大逆転で見事に勝つてしまいました。AIにはこんな大逆転はありません。人間ならではの事です。

プロの対局では大事な局面になると、一手指すのに何十分、時には何時間も考えにふけることは珍しくありません。脇息(きょうそく)に身を預けたまま動かなくなる姿、自分の頭をゴンゴン叩く姿、目を閉じてじつと考え込む姿など、いろいろな姿を見せてくれます。「ひふみん」こと加藤一二三九段には、相手が中座した際に、相手の側に立つて盤を眺めたという有名な逸話さえ残つています。

誰の手も借りることも許されず、すべては自分が解決しなければならぬ孤独な時間です。棋士たちの胸の内には、何が去来しているのでしょうか。後悔? 答えが見つかからない苦しみ? 勝利の予感? それとも絶望? 孤独の中で呻吟する胸の内を想像するだけでも、こちらの胸まで熱くなります。



プロの将棋の対局中の写真 (右が藤井聡太二冠)

終盤では両者とも「秒読み」になります。一秒でもオーバーすれば、ただちに反則負けになってしまふ。「秒読み」に追われても、正確に指していくプロの並外れた頭脳と強靱なメンタリティーには、もはや脱帽するしかありません。とても人間わざとは思えません。そんなプロでも、時には駒や碁石を落としてしまふほど慌てる姿を見せることがあります。ちよつと人間らしさが感じられて、なぜかホツとします。

プロの見せる所作も注目されます。対局開始の時は深々と礼をします。「負けました」と頭を下げる敗者の声で対局が終わります。勝ち誇ることも、嘆き悲しむこともなく、感情を抑えて淡々と「感想戦」に臨んでいきます。これらの所作には、相手に対する敬意とプロとしてのプライドを感じます。

プロ棋士はまた棋譜を汚す手を嫌います。棋譜は記録に残り、後世に伝えられることを十分に意識しているからでしょう。文化の継承者、創造者としての誇り、責任感を感じます。

人間同士の勝負には人間にしか見られないドラマや魅力があります。AIがどのように進化しようとも、プロ棋士の存在意義はこの先もなくならないのではないのでしょうか。

スマホやパソコンで、デジタル時代を楽しもう

吉岡 芳夫

菅首相肝いりのデジタル庁が九月から始動する。我が国のIT化の停滞は目に余る状態で、その現実は一連の新型コロナウィルスの対応で思い知らされたこと、新聞が書いています。コロナ感染者のデータ収集が長い間手書きとFAXのアナログだよりだったそうです。行政のデジタル化が推進することを望むのはもちろんだが、我々はデジタル化

の恩恵を意外なほど受けている。私は、インタネット世界旅行、易しい科学の話スマホ勉強会といったサークルを主宰しているがこれらをやるのは、インタネットに掲載されているデジタル情報のおかげなのである。以前なら、新聞や雑誌の記事を見つけるとコピーし、そうして集めた資料をアレンジして資料として会合で紹介していた。デジタル時代では、パソコンで検索すれば、希望の情報はあつという間に集めることができる。そうして得た情報はパソコンでアレンジし、それをフロッピーディスクや投影することもできる。

インタネット世界旅行では、ほぼ世界各国の旅行情報をネット上で閲覧し、短時間にサークルの資料を作ることができる。google mapでは、ワンクリックで各地の現場の映像をそこにいるように見ることがができる。

使いこなせれば素晴らしい情報を視聴できるスマホだが、その使い方を解説書で勉強するのは高齢者にとつて不可能に近い。スマホ教室では、スマホの画面を写しながら利用法を説明する「YOUTUBE」というサ

イトの動画を利用してはいる。八月の例会では、講師の健康上の問題で予定の講演が中止されたが、急遽、ネットからノーベル賞受賞者の山中伸弥教授の「人間万事塞翁が馬」と題した講演を入手して聴くことができた。パソコンを使うのが最良だが、スマホでもデジタル情報は気軽に視聴できる。今からでも遅くない。高齢者でもできる。そして、デジタル時代を楽しもうではありませんか。

八月の川柳同好会作品

柔道の 赤白旗も

ビデオ任せ

小坂 武士

いきいき会

今こそ本音で友づくり

福井 康人

物忘れ 良いこともある

厭な事

林 進

唄うたびマイクの消毒

守つてる

吉岡 芳夫

何いことも自分で作る

世界です

吉野 廣

言うなよと念を押しては

皆に言う

南部 歳子

笑み隠し 健闘讃える

思いやり

大野 勉

欲しいのは 一気呵成の

気力体力

千田 節子

暇ひまで ついムダ買いの

テレシヨップ

澤村 玲子

マスク中 女忘れず

紅をひく

吉田美恵子

いつの間に 乾し大根

両腕よ

新田ヨシエ

けふもまた 暑いあついと

ふてテレビ

上坂 征夫

野の花が 愛しくって

連れ帰る

橋本小夜子

猛暑日は肌を刺すほど

温度下げ

松島 成美

旨い酒 気分も最高

雲の上

増永 一夫

この国で次は見られぬ

オリンピック

小林 久子

老いの身もピンク色には

目じり下げ

濱田 芳雄

令和3年9月の予定表

日付	曜日	活動場所	開始時間	行事名
1	水	B	13:00	経済指標を考える会
2	木	B	13:00	囲碁将棋
3	金	マ		
4	土	マ B	13:00	卓話を聴く会
5	日	マ		
6	月			
7	火	B	13:00	映画鑑賞会
		市体育館	13:00	ピンボンの会
8	水	B	13:00	囲碁将棋
9	木	B	13:00	易しい科学の話
10	金	マ	終日	夜明けの会
		市体育館	13:00	ピンボンの会
11	土	マ B	13:00	よろず討論会
12	日	マ B	13:00	夜明けの会
13	月	B	13:00	新聞記事を読む会
		市体育館	13:00	ピンボンの会
14	火	B	13:00	運営委員会
15	水	アオッサ6階レクA	13:30	うたのサロン
		コートダジュール	13:00	カラオケうた会
16	木	ハピリン4F	13:30	芸能倶楽部
		B	13:00	囲碁将棋
		市体育館	13:00	ピンボンの会
17	金	マ B	13:00	歴史を楽しむ会
18	土	マ B	10:00	私の健康法
		B	13:00	川柳同好会
19	日	マ		
20	月	B	10:00	合唱サークル(35)
		B	13:00	短歌の会
		別会場	13:00	手作りの会
21	火	B	10:00	楽しい暮らし方
		B	13:00	映画鑑賞会
22	水	B	13:00	インターネットで世界旅行
23	木	B	13:00	囲碁将棋
24	金	マ B	13:00	気軽に話せる場所
25	土	マ		
26	日	マ		
27	月	B	10:00	合唱サークル(36)
		B	13:00	スマホ勉強会
28	火	B	13:00	音楽鑑賞会
29	水	ハピリン4F	13:30	芸能倶楽部
30	木	B	13:00	文化祭最終打ち合わせ

マは3階、Bは2階が活動場所

令和三年
九月の行事予定

例会(講演)
今月は、文化祭の準備のため、例会は休会と致します。

歴史を楽しむ会

講師 大野勉氏

「新撰組が幕末の日本を動かした。」が今回の統一テーマです。第一回の今回は「江戸時代とは」というサブテーマで、江戸末期のわずかな期間を一民間小集団にすぎない新撰組が日本を動かした背景を、政治、経済、文化等各面から検証してみたいと思います。

夜明けの会

今月は二回の開催で、九月十日(金)は、越前陶芸村体験ツアー、十一日(日)は、通常の会合です。(主宰者は福井会長)

映画観賞会

七月は、洋画は「ワン・デイ」二十三年のラブストーリー、邦画は「恋は雨上がりのように」を上映しました。いずれも恋愛映画で、比較的新しいものでした。九月もいくつかの候補の中から見たいものを参加者が決めて上映します。上映希望の映画がありましたら、世話役(090-1392-5405)吉

インターネット世界旅行

案内先 トルコのカップアドキア、バムツカレ、ヒエラポリスなどの世界遺産 トルコの三回目です。



トルコのカップアドキア

珍しい場所がまだたくさんありますよ。(案内は吉岡副会長)

スマホ勉強会

画像の保管法、検索法や動画の送り方、保存の仕方、iCloudの使い方などを勉強しましょう。その他の使い方の相談にもできるだけ対応します。(講師は吉岡副会長)

易しい科学の話

Blue Tooth (Bluetooth) って何? 知らないうちに使っている無線通信。スマホの音楽を離れたところにあるスピーカーカードで聞いたり、パソコンのマウスを無線で動かしたり、スマ

ホの画面をテレビに映したり。(講師は吉岡副会長)

音楽鑑賞会

クフシツク鑑賞では、モーツアルトの「ロンド」二長調、「ピアノ協奏曲第二十番」八長調第二楽章、ヘンデルの「水上の音楽」組曲第二番二長調、葉加瀬太郎の演奏曲集から「エトピリカ」や「シリリアンセレナーデ」等4曲、POPSでは、WADASPICI LALから、「愛しのラナー」など3曲、石原裕次郎の「北の旅人」など3曲、YUZUYOUの「栄光の架け橋」を鑑賞する予定です。(主宰者は小林副会長)